記者リポート

今何が

勝山・20回目迎えた自治体会議

環境保全に新たな活動

赤トンボ調査　6団体、100人参加

エコ事業創出期待も

「赤トンボが当たり前に飛んでいる勝山の風景を残そう」。この力強いメッセージを子どもたちが発信した第20回環境自治体会議かつやま会議（福井新聞社後援）から1カ月。市の赤トンボの生態調査に市民や企業が参加し、勝山の環境保全活動は新たな広がりを見せている。参加者アンケートからは環境ビジネス創出など、政策の戦略的な発展を期待する声も上がった。持続可能な社会づくりに向けた、かつやま会議後の市内の動きを追った。（勝山支局・藤野大輔）

●手応え

勝山市村岡町浄土寺の田んぼ。朝日を受ける青々とした稲の中に、銀色のきらめきが躍っている。羽化したばかりの赤トンボたちだ。「こんなにいるなんて気付かなかった」。赤トンボの生態調査に参加した市民たちは、田んぼが育んだ豊かな生命に目を見張った。

市が公募した市民調査員には企業を含む6団体と個人の100人余りが応じた。かつやま会議に参加した調査員の一人、松村信子さん(70)は「勝山の自然を守ろうという子どもたちの発表に涙が出た」と振り返る。「今度は大人が身をもって教えていくべき」と意欲的だ。

山岸正裕市長も「子どもたちの啓発が大人の胸に響いた」と手応えを口にする。「大上段ではなく、身近な川や町をきれいにしようという市民の活動が、かつやま会議で評価された。市民の自信になったと思う」

●ヒント

11の分科会には市内をはじめ、全国の市民団体などが参加し、先進事例の発表や活発な情報交換を行った。

食廃油のリサイクル事業に取り組む障害者就労支援事業所「ステップハウス」（芳野町2丁目）の小林まち子係長は、飲食店などから出る油かすの活用で、福岡県の参加者からヒントを得たという。「油かすを使った肥料作りの資料を送ってもらった。事業化できるか分からないが、足掛かりになった」と話す。

市民参加の清掃活動「クリーンアップ九頭竜川」を毎年、開催している勝山青年会議所の齋藤勇理事長は、下流域で活動するエコネイチャー・さかいの発表に中・上流の取り組みの大切さを再確認したという。「下流のごみの量に、参加した市民も驚いた様子だった。目の前の川だけでなく、広域的な問題提起が必要」と力を込めた。

●存在感

かつやま会議では環境自治体会議の新たな規約をつくり、これまでの緩やかなネットワークから組織としての結束をより強めた。会員53自治体のうち、30市区町村が参加して初の災害支援協定を締結。さらに10年後の達成を目指し、温室効果ガス排出量の削減など10分野の共通数値目標を設定した。

20回目にして情報共有から具体的な実践の場になった自治体会議。勝山市環境政策課の平沢浩一郎課長は「自治体同士の横のつながりに期待したい。共通目標はハードルが高いものもあるが、勝山が取り組める部門から目指して、資金を生む環境事業・ビジネスの創出に挑んで」との声があった。

エコ環境都市を目指す市の環境政策や市民活動は、かつやま会議において大きな存在感を示した。今後も環境自治体会議のネットワークを生かし、この成果を持続・発展させていってほしい。

（左上から時計回りに）かつやま会議分科会で発表する子どもたち、全体会のパネル討論、赤トンボの生態調査に取り組む市民のコラージュ写真

努力し、先進的な自治体にも学んでいく」と決意を新たにしていた。

一方、参加した県内の自治体関係者は「エコミュージアムや赤トンボなどの取り組みを今後、農業や里地里山を守るための政策に、どう落とし込んでいくかが重要」と課題を指摘する。参加者アンケートにも「環境と経済を結び付ける観光施策

◇県柔道大会兼信
年柔道大会（前9・30
会）
◇福井市少年
権大会（前8
道館）
◇川崎和男
（正午　福井市
◇県珠算選
9　福井市の
◇福井市南
碁大会（前9
殊公民館）
◇いけばな
部花展　みん
まで　福井市
◇シャガー
ー展（16日ま
術館）
◇イルカ杯
泳競技大会（
井市のベルフ
◇こころ映
登日本画展（
井市のギャラ
◇パープル
展（1日まで
ャラリー風遊
◇夏季展（
福井市のギ
画廊）
◇県越前ビ
会（前8・30
巣海水浴場）
◇ビーチバ
県予選会・全
レー女子選手
会（前8・30
巣海水浴場）
◇坂井市民
会（前9　坂井
◇カーネー
親善ゲート
8・30　坂井
ンド）
◇坂井町
ッジボール
坂井市坂
◇坂井市
ス大会（前
運動公園）
◇いけば
祭　花・